

こだま

第172号
2010.7

ISSN 0915-8782

CONTENTS

- ほん和かふえ。オープン記念対談 1
- ブックラウンジから始まるコミュニケーション 4
- 明後日朝顔プロジェクト2010金沢 6
- 金大生のための読書案内 7
- トピックス 8

金沢大学附属図書館報 “こだま”

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp>

ほん和かふえ。

オープン記念 対談

ダートコーヒー株式会社
代表取締役社長

水上 慎太郎

mizukami shintaro



みずかみ しんたろう

ダートコーヒー株式会社
代表取締役社長

2001年に入社後、常務取締役
管理本部長を経て、2006年に
代表取締役社長に就任する。



しばた まさよし

金沢大学教授
2008年より金沢大学人文学類
長（文学部長兼任）と金沢大学
附属図書館長を兼任している。



金沢大学附属図書館長

柴田 正良

shibata masayoshi



「ほん和かふえ。」がオープンしてはや2ヶ月。オープンを記念して、「ほん和かふえ。」を運営しているダートコーヒー株式会社社長の水上慎太郎氏と、柴田正良附属図書館長、お二人の対談を企画しました。対談は、去る6月某日、「ほん和かふえ。」で買ったコーヒーを片手に、ブックラウンジで行われま
司会：岡部幸祐（情報サービス課長）

思い出のコーヒー

柴田■水上社長は現在ダートコーヒーの社長をされていますが、コーヒーに係わる仕事を選択したきっかけというのはありますか？「やらない」という選択肢もあったと思うんですが。やっぱりコーヒーが好きだったから？

水上■まあ家業ですから（笑）。物心ついた頃には、自分の傍に常にコーヒーがありましたし、自分自身も幼少期からたっぷりの砂糖とミルクを入れてコーヒーを飲んでましたんで。

柴田■ちなみにその飲み方は今も変わらないですか？

水上■いやあ、今はそんな飲み方はしません（笑）。

柴田■砂糖をたっぷりということは、お菓子代わりとか、ジュースのように飲んでいたということですかね？

水上■そうですね。まあ子供の頃ですから。砂糖を大さじ3杯位入れて飲んでいたと思います。

金沢とコーヒー

——金沢のコーヒー消費量はどれくらいですか？

水上■金沢は全国の都市の中で、コーヒーにかかる一人当たりの金額が高いんです*。これは統計にも出ています。これに関して、色々なところから当社の方にも問合せがあるんですよ。「こんな統計がでていますけど何故ですか」と。これに対する回答でこれだ！っていうのはないんですけど、やっぱり金沢の人の食に対する意識の高さというんでしょうか、そういうものがコーヒーに対してもあるんでしょうね。おいしいコーヒーを求める人が多いんだと思います。

柴田■それは、コーヒーが金沢の人に好まれているということですかね。実は前に、金沢にはカフェとかコーヒー店が多いと聞いたことがあるんですが、実際どうなんですかね？

水上■昔は全国でも多い都市だったようです。学都金沢と言われるように、四高があって、学生が多かった。

柴田■確かに今でも学生の数は多い。

水上■学生とコーヒーの文化というのは結びつきがあったようです。だから喫茶店やコーヒー店などが多くあった。ただ、現在は喫茶店という形では、名古屋とか岐阜が断然多いですね。あちらの地域は、生活の中に喫茶店が取り込まれていますから。朝は喫茶店でモーニングしてから仕事に行く。週末は家族全員で朝、喫茶店に行って、それから1日が始まる。

柴田■私も名古屋にいたことがあるので、わかります。モーニングの量が多いですよ。

水上■モーニング文化っていうのは、あの地域特有のものでしょ。コーヒー1杯の値段でトーストがつく、卵がつく。

柴田■サラダもつきますよね。

水上■そうですね。最近では北陸にもその文化が入ってきていますね。我々としても北陸でモーニング文化を浸透させていきたいなあという思いはあります。



柴田■金沢独特のコーヒーの好みってありますか。

水上■全国でコーヒーを飲まれるとわかると思うんですが、例えば関西とか名古屋のコーヒーって濃いですよ。金沢はどちらかというとなっさりとした感じですよ。

柴田■それはローストが違うということですか。

水上■もちろんローストも違いますし、あとやっぱり水が違うんだと思います。水がおいしいと浅く焙煎した豆でもおいしいんです。水の味をごまかす必要はないんですね。あと食事も影響しているかもしれないですね。あっさりとした和食にも合うようなコーヒーが好まれているのでは、と思います。



●●「ほん和かふえ。」の美味しいおすすめ●●

店員さんのおすすめは・・・

カフェ・モカやキャラメル・マキアートといったコーヒーメニューもさることながら、店員さんイチオシは意外にも「抹茶ラテ（290円）」。「抹茶にこだわりました！」とおっしゃる通りとても滑らかでおいしいです。

図書館の皆さんのおすすめ

私のおすすめは全部！と言いたい所ですが、あえて1つを選ぶなら、今の季節にぴったりの「ほん和くーらー（カフェラテ・抹茶・ベジタブル各390円・ハーフサイズ250円）」です。特にベジタブル味は、フローズンなのにベジタブルってどんな味？とおそろおそろ飲んでみたところ、りんごペースでさっぱりしていてこれは飲みやすい！皆様も暑い日には是非お試しください！

「ほん和かふえ。」と図書館

——「ほん和かふえ。」を含んだこのスペースはイベントができる形に設計してあります。図書館も色々なイベントを積極的に企画していきたいと思っています。

水上■我々も図書館側も目的はいかに学生に図書館を利用してもらうか、ということです。なので、協力して色々やっていきたいと思っています。

柴田■私の個人的な意見なんですが、図書館をもう少し美術館に近づけたいと思ってるんです。最近の美術館は絵や彫刻を見せるだけではなく、パソコンを置いて情報検索できるようになっていたり、レストランやカフェがあったりしますよね。図書館の本体はもちろん書籍や雑誌だけど、それだけではなく、最近の美術館のように居心地よくおしゃれな空間にしたい。この「ほん和かふえ。」の空間はそのイメージに一步近づいた感じなんです。

水上■入口として大事ですよね。

柴田■新しい空間として期待しているんです。私どもとしては、この空間全体を図書館が美術館に近づいた部分として位置づけたい。

水上■そういう方向性の中で、我々もカフェを運営して、その一端を担えればと考えています。

柴田■カフェのように、飲み物が提供されて、リラックスできる空間がないと、ダメなんです。カフェがないと単に椅子があるだけの空間になってしまう。

——自動販売機ではダメですよ。

柴田■自動販売機じゃあダメですよ。

水上■そうですね。

柴田■単に椅子があって、たまに絵が飾られてたり、たまに研究発表会が開かれたりじゃ、ちょっと味気ない。やっぱり常に人が集まっていて、議論を交わしているとか、情報交換しているとか、友達と待ち合わせしているとか、そういう空間が自然にできるのがカフェだと思うんです。

*統計局調査都道府県庁所在市及び政令指定都市別ランキング（平成19～21年平均）で全国3位。

——ここが出会いの場になればいいなと考えています。ここから何かが始まったり、生まれたり。

水上■カフェは人が集う場ですよ。今、集客の一つのツールとしてカフェが重要視されているんです。本屋とかにも併設されていたりしますよね。我々も図書館に学生を呼び込む、そのお手伝いできればと考えています。

——メニューについて学生から意見を聞く、そういう手伝いを図書館もしたいと思います。

水上■学生あつての店なので、声を聞いて、学生が求めているものを提供していかなければならないと思っています。今は試行錯誤しているところですね。

柴田■「ほん和かふえ。」独自のカラーが出せるようになるといいですよね。

——それでは最後に「ほん和かふえ。」に対するお二人の考えをお聞かせください。

水上■我々としては親しみやすい店を目指しています。なので、金沢大学の学生に勉強の合間の一服として利用してもらえればと思っていますね。コーヒーを飲んでリラックスして、更に勉強に励んでいただければ。

柴田■私は先程もちょっと話しましたが、入館ゲートの向こう側は本来の図書館で、この「ほん和かふえ。」がある空間は、例えば21世紀美術館と図書館をつなぐ融合部分だと考えています。まあ、21世紀美術館は空間的に大分離れていますけど（笑）。なので、この空間にはギャラリー機能や小さな研究発表の場としての機能を持たせたいですね。



「ほん和かふえ。」前にて 水上社長(左)と柴田館長(右)

(情報企画課 川井奏美)

「ほん和かふえ。」 オープニング・セレモニー開催

4月6日「ほん和かふえ。」のオープニング・セレモニーを行いました。水上慎太郎ダートコーヒー社長、高木繁雄北陸銀行頭取、中村信一学長、櫻井勝情報担当理事、柴田正良附属図書館長によるテープカットの後、学生サークルのモダン・ジャズ・ソサエティの演奏をBGMにして試飲会を行いました。

